



143
No.

2007.11.27

青山クリエ

発行:青山学院女子短期大学 〒150-8366 渋谷区渋谷4-4-25 Tel.03-3409-8111
http://www.luce.aoyama.ac.jp
AOYAMA GAKUIN WOMEN'S JUNIOR COLLEGE

クリエは (Courier) はフランス語で「使者」、「定期便」を意味し、英語ではCourierと綴ります。本学の広報誌として、4月、7月、12月、3月の年4回発行されています。青山クリエは本学のホームページからもご覧いただけます。

Front-Page Message

「クリスマス」に寄せて (伊藤勝啓) 1

Christmas

クリスマス行事案内 2

Campus News

「特色ある大学教育支援プログラム」に採択 3

Campus Report

課外活動プログラム 4

専攻科はいま (専攻科家政専攻) ・姉妹校来訪・講演会 5

進路特集 (就職状況・編入学体験記) 6

Courier-Outlook

わたしの学生時代 (齋藤修三・信澤久美子) 7

Bulletin Board

教務課より・「天城冬の集い」のご案内他 8

「クリスマス」に寄せて

宗教主任 伊藤 勝啓



クリスマスは、日本でもなじみ深いものとなりましたが、その意味については案外無頓着なところがあるように思われます。

クリスマスには、神の側の明るさと人間の側の明暗二元性が見られます。まず、神の側では、神をないがしろにして生きる人間の悲劇の歴史に対して、イエス・キリストという歴史的人物において、まったく新しい展望が示され、人類の希望が生まれました。「然り」という肯定を告げ知らされたのです。もちろんその根底には、イエス・キリストの十字架の死による贖いという代償が起こりました。これは神の一点の曇りもない明るさに繋がっています。

これに反して、人間の側には、神をないがしろにしてきた人間の悲劇の暗さの頂点とも言うべきこと、すなわち、ヘロデ王による嬰兒虐殺という事態が起こりました。また、一人の女性マリアの初産にホテルの部屋を提供できない人間の思慮のなさをあげることが出来るでしょう。ルカによる福音書は「宿屋には彼らの泊まる場所がなかった」と記しています。



人口調査のために故郷に帰っていた人々で宿屋は恐らくこった返していたことでしょうか。他人のことなどがまわっている余裕がなかったのかも知れません。それもわかります。ただ、そこには他者に対する無関心という重い病があったのではないのでしょうか。これは現代の私たちにも通じることです。殺人と無関心、これこそ人間の支配に属する暗黒ではないでしょうか。クリスマスはそのことを

私たちに暗示してくれています。しかしながら、人間の側にはもうひとつの不思議がありました。そのひとつは、異邦人の中に、星の輝きを頼りに救い主の誕生を祝おうとしてはるばるやってきた占星術の博士たちです。

ここには二つのことが隠されています。ひとつは、当時の科学者ともいべき人々が救い主の誕生に深い関心を払い、旅の危険を顧みず、労苦をもいとわず、救い主を礼拝しにやってきたのです。科学そして科学に携わる者の心意気が感じられます。ふたつ目は、その彼らはイスラエルの人々が嫌う異邦人であったということです。クリスマスは、その初めから、異邦人が射程に入っていたのです。ここにクリスマスは民族の枠を飛び越える契機を持っていた、ひとつの民族や国家にとられない神の支配の普遍性を見て取れるのです。

次に、救い主の誕生を告知されたのは、羊飼いでした。彼らは当時、人々の尊敬の対象ではありませんでした。けれども彼らは選ばれて救い主誕生の証人とされました。それには旧約聖書以来、しばしば、神は羊飼いで、私たち人間は羊の群れに譬えられていることに理由があります。今やこの世の羊飼いはまことの羊飼いであられる救い主に会うのです。これは彼らにとって予期せぬ、大きな出来事でした。

イエス・キリストの誕生のあと、両親はエルサレムの神殿に行き、子どもを献げることになりました。そこにシメオンという信仰の厚い老人、また若いときに夫を亡くし、以後神殿において神に仕えていた女預言者アンナに出会います。この二人はありきたりのユダヤ教徒ではなく、真実にその信仰に生き続ける人々でした。彼らは救い主の誕生を喜び、救いを待ち望むイスラエルの人々にこの幼子のことを話したのです。とくに老シメオンは幼子の母マリアに幼子の将来に起こるであろう出来事を語ります。それは母マリアの胸を刺し通すような暗い出来事なのです。ルカはこのシメオンをして、次のように言わせています。「多くの人の心にある思いがあらわにされるためです。」

クリスマスはこのように神の側と人間の側との間に様々なダイナミクスを生み出すものでありました。今日においても、クリスマスはまさにそのようなダイナミクスをもつのではないのでしょうか。

Christmas

命は人間を照らす光であった。光は暗闇の中で輝いている。(ヨハネ1:4~5)



★クリスマス・ツリー点火祭

日時/11月30日(金)

17:20 ~ 18:00 (5時限授業は短縮で17:20迄)

場所/ツリー前(メインストリート)

(雨天時は青山学院講堂にて行います)

＊クリスマスを待ち望む期間(待降節、アドヴェント)の直前の金曜日に、幼稚園児から大学院生まで、学院全体で点火祭を行っています。今年で31年目になる歴史あるイベント。5時限の授業が短縮になりますので、誰でも参加できます。是非ご出席ください。

★アドヴェント・チャリティー・チャペル・コンサート

日時/11月30日(金) 18:30 ~ 19:30

場所/短大礼拝堂

出演/聖歌隊、ハンドベル・クワイア、ゴスペル

入場無料

＊クリスマスを記念して行うチャリティーコンサート。クラブ活動の1年間の成果を披露します。また、本学にゆかりのある活動団体、実習やキャンプでお世話になった施設の働きを覚え、その一助になればと願い、チャリティーコンサートといたします。あたたかい気持ちが伝わるように精一杯の演奏をいたしますので、どうぞ聴きにいらしてください。

★クリスマス礼拝

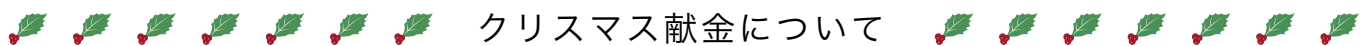
日時/12月19日(水) 13:00 ~ 14:30 (3時限休講)

場所/青山学院講堂

メッセージ/「クリスマスのしるし」

小室尚子氏(東京女子大学准教授)

＊11月になると、町の中にはたくさん「クリスマス」があふれます。でも、皆さんは知っていますか、クリスマスって何なのか? 青短生として、いつもとは一味違う「本物のクリスマス」のお祝いをご一緒にしましょう。



クリスマス献金について

★クリスマス献金の意味

クリスマスとは、クライスト・マス、つまりイエス・キリストを礼拝することです。イエス・キリストは、神の救いの愛になって飼葉桶に生まれるという最も貧しい姿でこの世界に遣わされました。そしてこの誕生を最初に知った羊飼いたちと3人の占星術の学者たちは、彼らにできる最上の贈り物をもって、イエス・キリストに会いに行ったと聖書に記されています。彼らにならい、そして「神は、その独り子をお与えになったほどにこの世を愛された」というクリスマスの出来事に感謝し、私たちがその神様の愛に応えて、人々の間に平和が宿るように願いつつ、クリスマスの時に献げ物(献金)をしたいと思えます。どうぞ、このクリスマス献金の精神をご理解いただき、ご協力ください。

★献金方法・期間

2年生はキリスト教学のクラスで、1年生と専攻科の学生は必修科目の授業・ゼミ・アドグルなどを通して、献金にご協力ください。また、献金箱は、教員の各研究室・事務室と図書館の学生窓口・本館受付・講師控室・礼拝堂・短大食堂・宗教活動センターなどに設置する予定です。12月18日(火)まで受け付けています。



★クリスマス献金の送り先

1. 女性の家HELP(緊急避難センター)
家庭内暴力や人権侵害に直面している日本在住の外国人女性、日本人の女性と子どもを援助している団体です。
2. 信州共働学舎(障がい者生活施設)
専攻科児童教育専攻の学生が、毎年大勢泊まりがけで実習に出向き、貴重な生活体験を与えられている、農業を柱とする生活共同体です。
3. 興望館杏樹学荘(児童養護施設)
様々な理由で親とともに暮らせない子どもたちの生活の場です。中軽井沢でのサマー・キャンプ中にミニ・ワークをしている施設です。
4. 日本聾話学校
聴覚にハンディキャップをもった人たちの教育を覚えて捧げます。
5. ACEF(アジアキリスト教育基金)
バングラデシュの子どもたちに教育の機会を、をモットーに活動している基金です。
6. アジア学院
アジア・アフリカなどの世界各国の農村指導者養成とネグロス農業支援のために、私たちの応援の気持ちを届けます。

「特色ある大学教育支援プログラム」に採択

本学の取組「健康教育授業を軸とした健康支援」が文部科学省の平成19年度「特色ある大学教育支援プログラム」に 選定されました。

一般教育科目主任
清水 康幸

特色ある大学教育支援プログラム（略称：特色GP）とは、大学教育の改善・充実のために、教育内容・方法等の高度化・豊富化に資する特色ある優れた取組を文部科学省が選定し、それを広く社会に情報提供し、また財政支援を行うことにより、大学教育の改善や高等教育の活性化を促進することを目的とするものとされています。2002年度より始まり、今年が5年目となります。

本学では初年度に英文学科の取組「外国人教員による英語のコーディネート授業—その展開と教材作成—」が採択されていますので、2度目の選定となります。今年は大学・短大あわせて全国から331件の申請があり、採択数は52件（15.7%）でした。

◇取組の概要と評価

本取組は、2000年度からスタートした新しい健康教育カリキュラムを軸に、それまで取り組まれてきた課外活動等を再編強化したものです。

すなわち、①体育の授業を全学必修の「健康教育科目」として再編成し、選択制としました。これを軸に、②学生の体力向上・健康増進支援を目的とする「健康支援プログラム」と、③学生・教職員が存分にスポーツ活動を楽しむことができる「課外活動プログラム」とを充実させることにより、健康教育科目を両面から支える体制をとりました。

これらを通して、学生の体力・健康増進・意識の向上と、生涯スポーツ活動を見ずえた運動習慣の基礎づくりに向けて総合的な支援を行うことが、本取組の目的です。下図はその概念図です。

本取組に対する選定理由として、「心や体の健康が十分ではない学生が増加している今日、教養教育科目の中で健康教育科

目に着目して全学必修科目とし、さらに自分の体を自分で管理し、楽しんでスポーツを行う仕組みを作ったという点でユニークです。短期大学の教育課程における教養教育の持つ意味を新たに考える試みであり、他大学の参考になる取組として高く評価できます。」との評価をうけました。

こうした評価は、創立以来一貫して教養教育の充実に力を尽くしてきた本学の教育活動にとって大いなる励ましとなるものです。

この取組を担ってきたのは、森下先生や副手さんを中心とする体育研究室であり、また学生の健康を支えてきた保健室の深谷さん、そして様々な課外活動を支えてきた学生課の職員や学生部委員会の先生方です。改めて関係者の方々の積年のご努力に敬意を表するものです。

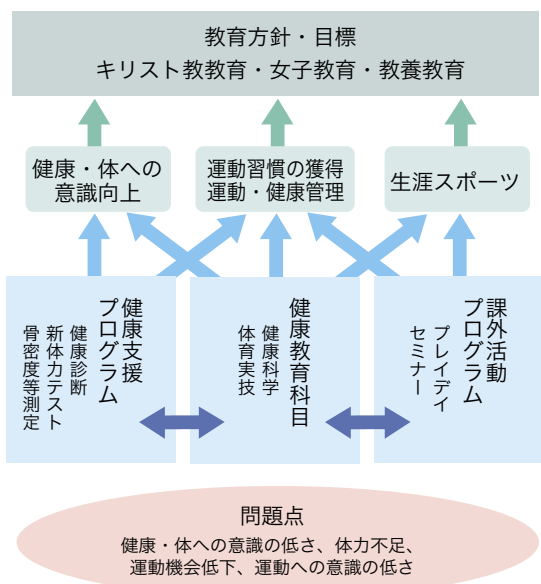
◇取組の特徴と意義

今回の取組は、本学がこれまで積み重ねてきた教育活動を総括したものです。私どもは申請に際し、この取組の特色として、次の4点を挙げました。

- (1) 学生のモチベーションを大切に
すべての取組において、「やらされる」のではなく自ら「やりたいことをする」原則に立ち、学生たちは存分に好きなスポーツを楽しんでいること。
- (2) 各取組の連携と相乗的効果
正課の健康教育授業と課外の活動（健康支援プログラム／課外活動プログラム）が有機的に連携し合い、相乗的な効果を上げていること。
- (3) 学生の社会性涵養の工夫
すべての取組において、学科を超えた学生同士のコミュニケーションに効果を上げていること。とくに秋期プレイデーは学友会主催で、学生たちが運営を担っている。
- (4) 取組の現代的意義
「健康教育科目」を全学必修とし、理論と実技のバランスの取れた科目編成とした。生涯スポーツや健康への意識、科学的知識の向上は、現代に求められる教養である。

実際のところ、この取組を通じ、体を存分に動かすことが学生たちにとって「楽しい」と実感できていること、また各種の測定・診断データが、学生たちにとって自らの健康やスポーツへの意識を高めているという事実こそが、何よりも重要です。

私たちの教育活動が、全国的にみれば貴重な取組として評価されたということは、それだけ現代人の心と体の健康が危機にあるということかもしれません。大学教育のもっとも基礎的な部分で、この取組が評価されたことの意味を改めてかみしめてみたいと思います。



取組の概念図

Campus Report Campus Report Campus Report Campus Report Campus Report
 Campus Report Campus Report Campus Report Campus Report Campus Report
 課外活動プログラム

行って良かった。清里。(7/28 ~ 30)

大の牛乳好きの私は「牛飼いにできるキャンプ？行く行く」と軽い気持ちで参加しました。牛飼いになる→おいしい牛乳が飲める！という図式が頭の中で出来上がっていました。しかし、おいしい牛乳以上にたくさんのものを、この清里ワークキャンプからもらったのです。



ひとりで参加した私は、知っている人が全くなくて不安だったのですが、寝食を共にする沢山の仲間たちと打ち解けあうことができました。キャンプの後半は全員が友達！といった感じで、最初の不安はどこへやら。仲間にもまれて本当に嬉しかったです。

清里の地は自然で溢れています。森を歩くプログラムがいくつかありましたが、私の中で最も印象に残っているのは、ナイトハイクで星を見ながら聞いたネイティブアメリカンの詩です。「これから最も弱い動物が生まれてくる。そのものために動物は糧になり、植物は家となり、そのものを支えてあげなさい。そのものとは、人間だ」という内容のものでしたが、本当にその通りだと、北斗七星を眺めながら実感しました。森の葉でスタンプや笹舟作りなど、童心に帰って楽しめるものもあり、改めて自然の面白さや楽しさを知りました。キープ協会には森の中に教会があり、とてもロマンチックな雰囲気でした。素敵です。

牛飼いのプログラムはこのキャンプのメインです。朝6時から



牛の放牧をしました。眠気と戦いながら向かった農場には、とってもかわいい牛達が待っていました。沢山の牛を放牧地に連れて行くのは大変でした。「行け！」と言うだけで動く従順な牛もいれば、体を叩いても動かないマイペースな牛もいました。力

いっぱい牛を押して放牧地まで行くと、爽やかな空気と一面の緑に牛が放され、草を食む姿が見られました。牛舎の中ではいるいるな餌を食べている(餌作りの体験も大変でした・・・)牛ですが、やっぱり緑の草が一番好きなのかなと感じました。穏やかで人なつこい牛をなでたら体が温かくて、乳搾り体験で手搾りした牛乳が温かくて、さらに乳房をそっと触ったら温かくて、そこに「命」を感じました。牛はいろいろな意味で温かい動物です。

そしてこのワークキャンプでお世話になったレンジャーさん達。それぞれにあだ名(レンジャーとしての名前)が付いていて、個性的な人ばかりでした。森の教会で結婚式をあげたラビット(うらやましい!!)、「やまなし輝く女性たち」に選ばれた REX、牛飼いの優しく人なつこい兄ちゃんの手ちゃん・・・夜の自由時間やご飯の時間もいっしょにいてくれて楽しいひと時を過ごすことができました。インタープリターという職業の存在も彼らのお話から知り、彼らがどのように自然と向き合い、人々に伝えていくのかを知ることができたのは大きな収穫だと思います。

このキャンプの思い出は書き尽くせないほど沢山あります。ただひとつ言えることは、ワークキャンプでおいしいご飯やおみやげだけでなく、精神的なものも沢山吸収して帰ってきたということです。大学生活のひとつの大きな思い出になりました。

(英文学科1年 羽鳥 まどか)

アジア学院ワークキャンプ (9/11 ~ 13)

3日間の中で私が最も忘れられないのが、鶏の世話をしたときのことです。朝のフードライフワークで、鶏が一生懸命温めている卵を食用として集める経験をしました。卵を取ろうとしたとき、鶏は大事な卵を取られたくないという卵の上に乗って動こうとしなかったり、卵を私たちから遠ざけようと、くちばしを使って転がしたり、私たちをついたり、鶏なりに必死に卵を守っていました。鶏が大切に育てている卵を私たちが食べている、という現実を目の当たりにした私は、物を食べられるということがどんなにありがたいことなのかを実感させられました。食前の「いただき



きます」の意味や、感謝して食べることを考えるきっかけとなりました。ちょうどその日の昼食にゆで卵ができました。ゆで卵が苦手な私も、感謝しておいしくいただくことができました。しかし、片付けの際に余ったゆで

卵を見て心が苦しくなっていました。

また、この3日間を通して考えたことは、「豊かさ」についてです。日本は豊かな国であるとよく言われるけれど、それは物質的なことだけなのではないかと思えます。アジア学院でたくさんの国から来ている方々に出会って一緒に過ごすうちに、とても優しい心を持って私たちに接して下さる方が多いことに気づきました。物質的には決して豊かとは言えない国々から来ている彼らだけれど、本当に大切なことは心の豊かさなのではないかと感じました。本当に学ぶことが多い3日間となりました。

(専攻科児童教育専攻 小山 里歌)

テーブルマナー講座 (9/13)

翌日に後期授業が開始する9月13日、学生部主催課外活動プログラムとして、「テーブルマナー講座」を開催しました。本プログラムは、学生から多くの要望があり、本年度はじめて実施したもので、卒業して、社会人となった場合に役立つ社会常識のひとつとして学んでもらうことを目的としています。当日は、本学の近くの閑静な住宅街の中にあるフレンチレストラン「ロアラブッシュ」で、レストランの方からテーブルマナーについての講習を受けた後で、実際にコース料理を食べながら、習った知識を実践しました。



(学生部)

専攻科はいま…

第5回

専攻科家政専攻

家政専攻について

家政学科主任 渡部 徳子

家政学科の専攻科は、1963年に新設されました。高等教育としての家政教育の場では、“家政”理念の流動化に伴い、何を如何にという問題が常に検討されなければならず、“家”の理念の追求とそれを政る家政学の確立、現実の家庭生活の諸面の分析的理解、とくに理工農の諸科学の方法を衣食住領域に適用する事が求められました。本学の家政学科においては、科学系の科目の充実という方向にスタートし、家政学の“科学化”の流れに乗る一方、底流にある生活の総合的観点へ配慮した教科目の編成が行われました。

家政学科の専攻科では、本科2年次の「家政学研究」の成果を踏まえて、さらに専門的な研究を進める家政特別研究が開講されており、被服構成、衣裳文化、食品学、栄養学、調理文化、生活用具論、人間工学、生活環境論、生命倫理の中から各自の研究分野を決定します。この他に、講義科目として、家政学特論（ライフスタイルを考える）、生活文化特論（生活文化を人間的視点で考える・食の美学・衣裳美の表現・人の一生・自己リスク管理）に加えて、家庭教育、家族社会学、



ビジュアルデザイン論（錯視の図形課題を制作中）

民族学、女性解放思想の歴史、精神保健とは、生活経済論、生活法律論、生活情報論、現代技術、商品検査、食品機能論、ライフステージ

養学、比較調理文化、ビジュアルデザイン論、モダニズム再考、芸術表現の可能性の探求、染色、工芸、キリスト教と文化、と多彩な講義が準備されています。本科に比べて、演習科目を質・量ともにさらに進めた形で継続研究させる方針が採られており、専攻科入学にあたり、学生は、直ちに志望教室に所属し、選任教員の指導をうけられます。その傍ら、関連専門科目の履修に加えて、他領域教科の選択履修により、充実した勉学の道が開かれています。

毎年、本科生の1割弱、約15名程度の入学者がありますが、それぞれ初期の勉学目標に向かって邁進しています。専攻科生の一人一人が、将来に対する目標を持って勉学に励んでいる様子や立居振舞いにも本科生に比べて大人らしさを感じられます。

「青山学院女子短期大学の歩み」（1975年発行）には、短期大学発足に向けて多くの先生方が討議を重ね、開設後においても社会の流れとそこから要求される教育内容・授業科目・学生像などを敏感に汲み取り、常にベストを目指した多くの軌道修正がなされつつ、現在の短大と専攻科の姿が創りあげられた事が記されています。これからも、時代の要請に応じた教育の場を提供できる教育機関として、本学の教育理念に基づいた改組改革が行われることでしょうか。それが生きている証でもあると思います。



姉妹校メリーランド・ノートルダム大学一行来訪

10月12日（金）～21日（日）の10日間、本学姉妹校メリーランド・ノートルダム大学学生4名と引率のリッター教授が来日しました。本学の招待による同校の来訪は、今回で5度目となります。来訪中、同校の学生4名は、シオン寮に滞在し、寮生と生活を共にしました。

来訪プログラムのメインとなる15日（月）～19日（金）の5日間、4名の姉妹校学生は、一人ひとり別れて、いろいろな授業に参加しました。書道や日本舞踊等日本の伝統文化を学ぶクラスは言うまでもなく、その他の通常授業でも、日米の文化の差異や両国学生の考え方の違いについて学ぶとともに、種々のテーマに関し、本学学生と意見交換を行いました。課外活動においても茶道部や華道部の活動に参加し日本の伝統文化を学んだ他、フットサル部の練習に参加する等、本学学生との交流を深めました。また、到着翌日の13日（土）には本学学生20数名と鎌倉を見学し、神社や寺、大仏等日本の歴史的文化に触れながら交流を深め、来訪プログラムの円滑なスタートを切ることができました。以上、10日間という短い期間ではありましたが誠に有意義な交流ができ、両校の絆をいっそう強くすることができたと思います。



鎌倉見学

(国際交流委員会)

ベアテ・シロタ・ゴードン氏
来日特別講演

日本の女性に託す希望
～男女の尊厳と世界の平和のために～
10月19日（金）於 青山学院講堂

「女性の権利」条項（「日本国憲法」第24条）の作成に関わった元GHQ民政局職員、ベアテ・シロタ・ゴードン氏による講演会が行われました。当日は在学生から同窓生まで約500名が参加。ゴードン氏の力強いメッセージに平和への思いを新たにし、男女の尊厳について深く考える時を持つことができました。



進路特集

就職状況中間報告

景気の回復に伴い、本学への求人数も年々増加しており、今年度就職活動をしている学生の内定率は順調に伸びています。

採用活動の開始は前倒しの傾向にありますが、秋以降の採用も比較的多く、長期化の様相を呈しています。まだすべての採用活動が終わったわけではなく、追加募集や、通年採用といった機会が今後もあると思われます。就職活動中、あるいは進路を就職に変更希望の学生は、気軽に就職係まで質問・相談に来てください。

右の表は、本学で4名以上の内定者が出た企業の一覧(10月15日現在)です。

再来年4月の就職を目指す人へ

進路について具体的に考える時期がやってきました。11月7日に実施された「就職説明会」に続き、各企業に内定した先輩の「就職活動報告会」が昼休みを利用して催されています。春休みには、より具体的な就職支援プログラムも予定しています。

自己分析(自分の特長と興味の方向を知り、自分をPRする方法を探る)をしっかり行い、本格的な就職活動に備えてください。

編入学体験記

筑波大学 図書館情報専門学群3年次編入

伊藤 裕美さん(2006年3月 家政学科卒業)

私は青山学院女子短期大学家政学科卒業後、筑波大学図書館情報専門学群へ編入学しました。現在4年生です。

なぜ、家政学から図書館情報学という全く違った分野の学問へと思う方もいらっしゃるでしょう。それは、2年間の短大生活の中で「図書館」という空間に大きな魅力を感じたからです。青短の家政学科では、将来の役に立つ学問である家政学を1つの分野にとらわれることなく調理、被服など興味のある分野を幅広く学ぶことができ、また都心にありながらも緑が多く落ち着いた雰囲気心な心を魅かれ、進学を決めました。

入学後、私は青短の図書館を、レポートや卒業論文の作成、ビデオやDVDの視聴と事あるごとによく利用していました。そんな中で図書館や情報検索のことについてもっと深く学びたいと思うようになりました。また同時に図書館司書の資格を取りたいと考えるようになったのです。そこで私は2年の春休み頃に筑波大学図書館情報専門学群への編入学を決意し、同時に予備校にも通い、本格的に試験勉強を始めました。そして夏休みには編入学試験に合格し、新たな道を切り開くことができました。

今、こうして振り返ってみると学生時代は様々なことにチャレンジしてきました。青短時代には教職、ワークキャンプ、アドグルなどに取り組むことで教授や他学科の学生と意見交換する機会が増え、多角的な視野を広げることができました。編入学後は、幼児向けに絵本の読み聞かせ、富士山のゴミ拾いをす

企業別内定者数

(10月15日現在)

企業名	内定者数
みずほフィナンシャルグループ	29
横浜銀行	16
東京電力	12
富士通	10
キャノン	10
千葉銀行	9
みずほビジネスサービス	9
PH P総合研究所	7
伊勢丹	7
プリンスホテル	7
本田技研工業	6
日旅サービス	6
JTB首都圏	5
三井住友銀行	5
川崎信用金庫	5
郵便局	5
ジュングループ	4
サマンサタバサジャパンリミテッド	4
ソフトバンクモバイル	4
資生堂販売	4
三菱東京UFJ銀行	4
八千代銀行	4
城南信用金庫	4
ジェーシービー	4
クレディセゾン	4
スターツグループ	4
ホテルオークラ東京	4

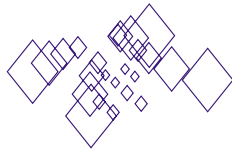
るボランティア活動に参加しました。また学生生活の中で一番の思い出となっているのが、内閣府主催の「日本・韓国青年親善交流事業」において韓国に日本代表として派遣されたことです。韓国で出会った方々との交流は私にとって



筆者右から2人目

大きな財産となり、派遣後も韓国青年との定期的な交流活動などを積極的に行っています。このように、学生時代にしかできない経験を私は数多くできたと実感しています。勉強だけでなく、様々な体験をして心に残る思い出を残すことも、充実した学生生活を過ごすために非常に大切なことだと思います。だから学生生活を送るみなさんには学生時代にしか経験できないことに積極的に取り組んでほしいと思います。

最後に、近年女性の社会進出が著しくなったことにより、女性のあるべき姿が変化しつつあると思います。だからこそ、私たちはその時代にあったライフスタイルを模索し、より良い道を広げていかなければならないと思います。青短の卒業生として、ここで得た知識や体験を今後の人生に活かし、そして社会に少しでも貢献できる人間になれるよう努力していきたいと考えています。



わたしの学生時代 第7回



目的と手段

英文学科教授 齋藤 修三

学生時代はほろ苦い思い出が多い。親とよく言い争ったこともその一つだ。卒業後どうやって食べていくのか？帰省するたびに問いただされた。他の学生は就活にいそしみ、〇〇に内定！などという噂も聞こえる。ぼくはというと、教職を投げ出しバイトに明け暮れる日々。漠然と文学や哲学の本をかじってはいたが、興味に応じてくれる授業も少ない。だから親に痛い所を突かれると、ふがいなさを棚にあげて「生計は手段でしかない。それでもって何をやるかの方が大事でしょ。要は人生の目的だよ」などとうそぶいた。

中年になってよくわかる。食うだけでも大変だし、家族や口をを抱えようものなら、それだけで毎日が忙しい。生計や健康を守るだけで手一杯、人生の目的など考える暇はない。世界の状況も温暖化も気にはなるが、まずは現状維持…。こうして手段だったはずの暮らしが、目的にすりかわる。日本の大人の多くは、身の回り半



径数メートルがもっばら人生の関心事となる。ぼくもその一人だから、そうなる気持ちがよくわかる。

だが、やはり手段は手段でしかない。豊かで快適なはずの生活にストレスが絶えないのは、手段



本学元宣教師クラーク先生（上段右）を訪ねて

と目的を倒錯し、生きる意味を忘却したせいではないか。『森の生活』で有名な米作家ソローは「たいていの人の生計の立て方、生き方は、単なる当座しのぎであって、“the real business of life”（生の本分、真の務め）からの逃避にすぎない」と言い放ち、勤勉節約蓄財に励む小市民の度肝を抜いた。家族のため、という聞こえはいいが、妻や子供には恩着せがましく映るらしい。愚直な問いを抱き続けることも、視野を広くし、頭の硬直化を防ぐには大切かもしれない。

キャリアアップもいい。だがそれを含む学生時代もまた「生きる意味や目的」からすれば手段でしかない。自戒を込めて肝に銘じたい。

わたしの学生時代

教養学科准教授 信澤 久美子

学生時代と言われて、はたと困った。いつから学生時代なんだろう？ それよりなにより、いつまでが学生時代なんだろう？

今でも学校へ通っているので学生時代の延長のような気持ちでいたことに、今、気がついたのである。そう、学生時代を卒業したくないくらい学生時代は楽しかったのだ。いつから楽しくなくなったのか？ やはり、大学に入ってからだ。雇用機会均等法もない時代だったので、同級生の女子は付属の4大へ行って親の七光りのコネで就職するか超難関だった青短へ進むなどしていた。私も食べていくことを考えて「医者か弁護士だ」と勝手に思いこんだけど、国立の医学部に行くには数学が苦手過ぎだった。それで、当時司法試験合格一位だった中央大学法学部へ入学した。



入学した後は、とにかく哲学から文学までいろんな本を読んだり勉強したり。毎日、図書館が終わるまで図書館に生息していた。ゼミの予習会としてプレゼミやプレプレゼミなんていうのが上級生も交

えて活発に行われ、夏には学校の寮で泊まり込みでゼミをしたり勉強会をしたり、図書館から帰っても誰かの下宿に集まって夜通し議論したり。そんな中から、弁護士になった人や大学の先生にな



ハロウィンにて

った人がずいぶんという。私も民法をもっと勉強したくなって大学院へ進むことにした。当時は数名しか院へ進まない謎の世界だし、女性で大学の先生になったという先輩は伝説の二人しか知らなかったというのに。院へ入ってから、一对一の授業が多くて特に原書講読はたいへんだったけど、何になるうというよりも新しいことを知り新しいことを考えることそれ自体が楽しかったので、いつの間にか夢中なうちに楽しく年をとった。そして、はっと気づくと、一緒にドイツ語やフランス語、そして法律を勉強していた仲間の一人と毎日合宿生活を送りつつ、昼間は若い学生さんたちと議論する日々。最近では小さな仲間も二人増えて、楽しい学生時代はまだ続いている。

教務課より

◆後期定期試験他の日程について

12月授業終了……………2007年12月21日(金)
 冬期休業……………2007年12月25日(火)～2008年1月5日(土)
 授業再開……………2008年1月7日(月)
 後期授業終了……………2008年1月15日(火)

※1月15日(火)は月曜日の振り替え授業を行います。

後期定期試験期間……………2008年1月16日(水)～1月29日(火)
 後期追試験受付手続き期間……………2008年1月16日(水)～1月30日(水)

月～金 9:00～16:30
 土 9:00～12:00

後期追試験……………2008年2月6日(水)～2月7日(木)
 再試験該当者情報端末揭示……………2008年2月15日(金)～2月22日(金)
 再試験……………2008年2月21日(木)～22日(金)
 卒業・修了認定者情報端末揭示……………2008年3月7日(金)
 卒業生・修了生成績通知配布……………2008年3月21日(金)

※全学生分保証人宛郵送

新2年生成績通知配布……………2008年4月2日(水)

「天城冬の集い」のご案内

期間：2008年1月30日(水)～2月1日(金)

場所：天城山荘(伊豆修善寺)

テーマ：友となること、友であること

特別講師：伊藤 悟氏(大学宗教主任)

学内講師：伊藤勝啓、ロバート・タヒューン、ジョセフ・フィリップス、
 荒木純子、秋富 創、横堀昌子、渡部徳子(予定)

参加費用：10,000円(宿泊費・食費・交通費含む)

申込・問合せ先：短大宗教活動センター(北校舎1階) 03-3409-7120

※後期の試験も終わり、皆さんの今年の短大での歩みの最後を、この冬の集いに参加していただきたいと願っています。静かな冬山荘で、日ごろ考えていること、思っていることをともに語り合い、学科・学年を超えて、私たちのこれからについて話をしてみませんか？必ず、「行ってよかった!!」と思えるはずです。

図書館より

◆冬休みの貸出について

貸出開始 12月14日(金)より
 貸出冊数 10冊まで
 返却期限 1月8日(火)

◆冬休み中は休館です

休館中(12月23日～1月6日)の図書の返却は、ブックポストをご利用ください。

◆試験期の土曜開館延長について

後期試験期の以下の土曜日は開館時間を延長します。
 1月12日(土) 9:00～17:00

※春休みの利用については掲示板または図書館ホームページ(<http://www.agulin.aoyama.ac.jp>)をご覧ください。

2008年度学費について

新2年生：来年度の学費は以下のとおりです。(円)

学 科	前 期	後 期
国 文	529,500	329,000
英 文	535,500	392,000
家 政	541,500	392,000
教 養	529,500	392,000
芸 術	663,000	440,500
子 ども	561,000	388,500
子ども(新3年生)	501,000	404,500

納付書発送	4月中旬	9月中旬
納付期限	5月中旬	10月中旬

問い合わせ先：金額、振込用紙など 03-3409-7088 (財務部)
 延納について 03-3409-7091 (学生課厚生係)

12/25、12/27～1/5は青山学院一斉休業です。～一斉休業中、日曜・祝日は原則として構内に入ることはできません～

情報処理実習室・マルチメディア教室の利用

12月22日(土)～1月6日(日)は閉室です。
 12月21日(金)まで及び1月7日(月)～1月29日(火)の利用時間は、以下のとおりです。ただし授業が行われている時間は利用できません。

	月～金	土曜	日曜・祝日
マルチメディア教室Ⅰ	9:00～19:00	9:00～13:00	
マルチメディア教室Ⅱ 情報処理実習室Ⅰ・Ⅱ	9:00～18:00		

1月30日(水)以降は、南校舎3階の掲示板、または本学ポータルシステム(Active Campus) <https://portal.luce.aoyama.ac.jp/> をご覧ください。

ギャラリー展覧会案内

Exhibition Guide

- 11/27(火)～12/21(金) …[Art クリスマス AOYAMA in Gallery]
 ークリスマスにちなんだ作品を幼稚園から大学まで一堂に展示しますー
 2008年
- 1/16(水)～1/25(金) …[家政学科・児童教育学科合同 卒業展]
 ー家政学科と児童教育学科(2006年度より子ども学科)の卒業制作ですー
 (南校舎2階被服構成実習室にも展示があります)
- 3/19(水)～3/22(土) ……[芸術学科 卒業展・修了展]
 ー芸術学科2年生と専攻科生の卒業修了制作を展示しますー
 (北校舎1・2階も展示会場になります)



「18th おーる あおやま あーと てん'07」
 6/26(火)～7/6(金)



「田島俊雄退任記念展」
 10/1(月)～10/13(土)

卒業式・修了式のご案内

2008年3月22日(土) 10時

青山学院講堂(9時開場)

卒業生、修了生は9時40分までに集合となります。

編集後記

青山学院のクリスマス・ツリーに火が灯される季節となりました。本学は130余年前にアメリカの若き女性の宣教師によって始められた女子小学校が源流となっています。何時のころからか日本では信仰に関係なくクリスマスを盛大にお祝いするようになりました。青山学院では幼稚園から大学院までの園児から学生が一同に集ってツリーに点火して、クリスマスを迎える準備の期間・アドヴェントに入ります。日ごろ授業、クラブ活動またはアルバイトなどで忙しくて礼拝に出席する余裕のない「あなた」、青山学院で学んでいる意味や自分に与えられているgiftについてチョッと立ち止まって考えてみませんか。(寺村 眞佐子)

編集委員

奥村 健一 鹿倉 秀典 志賀 智江 鈴木 智美
 田口 恵子 寺村 眞佐子 山口 静香 山田 美穂子